

台風 13号災害対応に関する地域の声について

1 趣旨

令和5年台風13号に伴う災害対応に関して、各コミュニティ単会を訪問し、直接地域の声を聴取することで、課題等を明らかにし、その結果を今後の防災対策に反映し、地域防災力の向上を図る。

2 聴取方法

- (1) 実施時期 令和5年10月23日から11月1日まで
- (2) 訪問先 各コミュニティ単会（会長ほか） 交流センター23か所
- (3) 市職員が各コミュニティを訪問し、災害対応に関するソフト面の対応を中心に意見を聴取した。

3 地域の声（主なもの）

次ページ以降に記載

- (1) 避難情報の伝達について、
- (2) 避難のあり方について、
- (3) 避難所の開設・運営について、
- (4) 行政と自主防災組織の関係について、
- (5) その他

地域の声（主なもの）

（１）避難情報の伝達について

- ア コミュニティ推進課とのLINE連絡網により随時情報が送られてくるが、避難所開設や避難行動要支援者への避難の呼び掛けの情報提供のタイミングが遅かった。
- イ 防災行政無線は、よく聞き取れないとの声が多い。電源自体入っていない家庭もある。
- ウ 市からの情報伝達を必要な人に効果的に広域的に迅速に行えるシステムの整備や、学区内の連絡網の構築を希望する。
- エ 市からの情報提供は、誰でも気づきやすい情報伝達方法を考案し、コミュニティがどのような対応をすればよいかわかりやすくして提供してほしい。

(2) 避難のあり方について

- ア 避難については、早めの行動が求められるが、避難を判断するための情報の共有が大事。
- イ 今回のような豪雨の中での避難行動は危険である。避難所開設は、空振りでもいいのでもっと早めに決定したほうがよい。
- ウ 豪雨の中では、地域住民に対して、コミュニティ等が避難を支援することは二次災害も起こりうるため困難。避難者の自己責任で避難させること（一人一人の意識化）が大事だと思う。
- エ 避難所である一部の学校周辺では水浸しになった。災害の状況にもよるが、避難所に適しているか検討が必要。
- オ 避難所は、学校の体育館よりも設備が整っている交流センターとするなど検討してはどうか。

(3) 避難所の開設・運営について

- ア 避難所開設職員が渋滞などで到着が遅れた箇所があったが、避難所の開設について、市職員だけでなく、コミュニティと連携して対応したほうがよい。
- イ 避難所の開設・運営にコミュニティがどう関わるかのルール、マニュアルや手順例等が必要。
- ウ 避難所には、雨天時等も想定し、傘立て用ポリバケツや出入口に配置するブルーシート、温かい食べ物を提供するための資機材の整備なども必要。
- エ 避難所担当職員には、日頃から資機材の取扱いなど訓練を実施し、スキルアップを図ってほしい。

(4) 行政と自主防災組織の関係 (自助、共助、公助の役割) について

- ア 地域住民に防災意識を持ってもらえるよう、自主防災訓練や防災啓発活動など継続した取組が大切であり、地域の防災リーダーの担い手として期待される防災士等を活用しながら、住民の防災意識を向上させることも必要。
- イ 東日本大震災以降、地域住民への啓発は地震が中心となっていたが、今後、水害対応についても更なる啓発が必要である。
- ウ 市と自主防災組織・コミュニティとの連絡体制や要支援者に対する災害時等の対応を含めた役割分担を明確にした協働体制の確立が必要。
(行政、コミュニティ、民生委員など)
- エ 市役所本庁舎の停電の影響から連絡が通じなかった。市とコミュニティとの連絡手段の再確認が必要。

(5) その他

- ア 今回の水害を受け、学区内の被害状況について、市と自主防災組織・コミュニティの共有化が必要である。
- イ 市が作成した防災マップのハザードエリアを把握している住民が少ない。
- ウ 今後の河川の氾濫等の対策を優先的にお願いしたい。
- エ 日頃から河川や側溝などの状況を確認し、浚渫や清掃などをお願いしたい。